

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	毎年、職員全員で反省を基に次年度の目標を掲げ理念を分かりやすい言葉で作成している。ホーム便り「ほほえみ」に理念を掲げている。例えば 平成 18年度・一人ひとりの時間を尊重し自由な暮らしを支えます。 平成 19年度・利用者の楽しい生活空間作りをお手伝いします。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	一日の始まりには必ず利用者・職員が自己紹介を行う等初心を大切にしよう心がけた取り組みを実施している。「楽しい生活空間づくり」を理念の一つとしており、買い物、ドライブ、レクリエーション、笑顔で挨拶等、具体化して、日々取り組んでいる。		
	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	警察や行政と連携して「東串良助け合いネットワーク」を立ち上げ、子供たちの登下校の見守り(立哨)や桜祭り、夏祭り等の地域の人たちとの交流、年末の独居老人宅の清掃作業等の地域福祉向上の取り組みを行っている。		自主事業としての活動で地域の人たちとのふれあいの機会があるが、地域の自治会やその活動等への積極的な参加を期待したい。
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月に 1回は必ず職員全員で問題点等を出し合い、最善に向けての話し合いを実施している。		
	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・理事・行政等の出席による運営推進会議を実施している。家族より施設の場所を示す看板を希望があり設置している。 評価に対する具体的な意見は特にない。		運営推進会議のメンバーから多くの意見をもらえるようにし、その意見を活かし、益々より良いグループホームになれるよう取り組むことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
		市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	警察や行政と連携し「東串良助け合いネットワーク」を立ち上げ福祉向上の取り組みをしている。		
4.理念を実践するための体制					
		家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月広報誌「ほほえみ」を発行し日常生活状況を担当者が記入し家族へ報告している。 金銭管理における利用者間でのトラブルもなく日用品購入や理髪代等その都度家族へ電話で了解を得ている。又、面会時に報告している。		
		運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が参加できる忘年会や一泊旅行等の行事を行い、その中で意見をもらっている。その意見を部署会議で報告している		家族同士が気軽に会話でき動んで家族会としての取り組みがなされるような働きかけを行っても良いかと思う。家族から出た意見を記録として残し振り返りの材料とした取り組みを期待します。 広報誌を一方的なものせず意見をもらえるような工夫を期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動があったが、利用者に対しては毎朝、自己紹介を実施したりしている。 職員であることを利用者・地域の人々が認識できるように制服を着用している。		
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修施設を利用した外部者の講演やテーマを決めて勉強会を毎年実施している。又、職員からも勉強したい希望を気軽に理事長に申し出ている。「看取りの介護」を体験し安心して暮らせるように取り組んだ事を職員で振り返りまとめて国内において発表する等している。		実施したことは今後の取り組みに活かされるよう記録に残すことが望ましい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内に同業者が少ないこともあり 交流する機会は少ないが国内外における視察を実施するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所前に家族や施設から本人の情報を得られるように心がけ施設見学もしてもらっている。担当職員を室内に明記し、利用者への声かけ・気配りを心がけるようにしている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>季節における様々な経験を五感を使って体感でき思いつき、声かけを工夫している。(餅つき、蓬摘み、ちまき作り、梅干し作り、田植え、そば打ち、味噌作り)</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活の中で本人の希望を汲み取ったケアを心がけている。</p> <p>意思の伝えられない利用者に対しては家族から情報ももらっている。(着る物、入浴の都合、外食時のメニュー等)</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画立案時のカンファレンスに家族も必ず出席してもらい個々に合った計画の検討を一緒に行っている。</p>		<p>介護計画立案時や変更時にカンファレンスを個人記録としてはもちろんであるが、議事録としても残り振り返り時資料としての活用を期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な計画の見直し(モニタリング)を実施し変更必要時の記入も行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診や墓参り等の移動サービスは行っている。		グループホーム事業所の多機能性について今後検討されることを期待する。
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族・利用者の意思を汲んだかかりつけ医と連携をとっている。往診も可能である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の介護について家族との話し合いで一時入院もされたが、家族の希望が強くホームでの看取りを行った。主治医の説明を基に意向の確認を何回も行いながら、主治医や家族との連携を密にし職員間で勉強会を行いながら家族と共に最期を看取っている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりに対して、できる事とできない事を把握し、さりげなく声かけしたりドアを閉めたりしている。個人情報等の書類は必ずシュレッダーを使用して処分している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望 訴えを傾聴し、要望に添うような過ごし方(横になりたい 声かけを嫌がる等)を優先している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の生活背景や一人ひとりの力量を見極めて声かけし職員と一緒に実施している。 自分たちの育てた無農薬野菜を食材として使用したり、季節感のある食材を利用している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間を決めた入浴ではなく、利用者一人ひとりに合わせた入浴ができています。コミュニケーションにも心がけ、羞恥心等への配慮もなされています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が経験してきたと思われる農作業や季節に応じた日常生活の楽しみ事を取り入れ、個々の力量に合わせた支援を行っている。稲刈りや芋堀りもあり、生活歴が活かされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子利用者も声かけし、時々散歩に出ているが日常的なものではない。 利用者の介護度が高いこともあり、自ら外に出ることができる状況や雰囲気がない。		利用者や職員が地域の中に溶け込み地域の人が気軽に立ち寄ることができるよう、日常生活で散歩や外出の機会をもっと取り入れる工夫や利用者が自由に室外に出ることができる雰囲気作りを期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠はしておらず、自由に出入りできるようにしている。各居室からベランダへ自由に行き来できるようになっている。生垣の中にフェンスもつけてある。 所在確認としてネットワーク作りについて自治体へ呼びかけている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年一回消防署合同の避難訓練や緊急時蘇生訓練を行っている。非常時の食料と水は2回分準備し、併設の施設に貯水タンクがある。又、災害時に地域の避難所になっている。安全管理や緊急時対応の勉強会も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の偏りがないよう声かけし摂取を促している。間食は自室持込みもしているが食事摂取の状況をみて取れない場合は、主食でカロリー調整をしている。		食事摂取量だけでなく水分摂取量もチェック表を活用し四季を通じて目標摂取量を決め飲水を促す等の工夫を職員が意識を持ってケアすることを期待します。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い共用居間には木製の食卓・椅子が置かれ抵抗感なく過ごせるように配慮されている。又、寒い時期には箱火鉢が用意され、畳敷きの仏間もあり折に触れ入居者の居心地の良さが考慮されている。一日の中で13時から15時は光や音を落とし利用者に寄り添った時間を必ず設けることで（レストタイム・午睡の時間）精神的安定がはかられている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋室と和室があるがそれぞれに使い慣れた家具を持ち込み使用している。又、各居室はベランダで繋がりが自由に行き来できるようになっている。		